

☆特集 第50回「ふくしま国体」

☆特集 第31回全国身体障害者スポーツ大会
「うつくしまふくしま大会」

☆特集 53'全国高等学校総合体育大会

☆特集 第31回全国身体障害者スポーツ大会 うつくしまふくしま大会の思い出

〈一般卓球（肢体不自由者）の部〉

平成7年度全国身障者スポーツ大会が福島県福島市に於いて開催されるにあたって、一般卓球（肢体不自由者）と盲人卓球の審判並びに運営を担当する事になり、約1年前より準備に入りました。

審判も健常者と違い特に車椅子の場合は特別で、市民会館での講義に参加したり、福島体育館での講習会を聞いたり皆一生懸命でした。又、中央から先生をお呼びして県営あづま総合体育館で講義を受けたり、家庭の都合もあって全員が参加出来る訳ではありあませんでしたけれど、一致団結して、とにかくミスの無い様にと神経を使ったものでした。

身障者の方々はとても熱心で深く感銘したものです。

本番に向けて審判のコート割りをしたり、タイムテーブルを作ったり大会に当たり欠員の無い様に心配り、選手の方々が、けがをしない様にするにはどの様にセットしたら良いか、県の福祉課にも度々伺いに参りました。

一年間はあっと云う間に過ぎた様な気がします。

大会当日は思った通り大変でしたけれど、無事に終わり皆で喜び合った事をおぼえております。

苦しかった事、反省点も多々ありましたが、私としては満足感でいっぱいでした。

大会競技役員の皆様、大変ご苦労様でした。

全国身障者公認スポーツ指導員

福島県家庭婦人卓球連盟 会長 岸 ひろみ

〈盲人卓球の部〉

平成5年10月県立盲学校にて審判予定者の初顔合せ。

初めて対面した盲人卓球用具の数々、部厚いテキストを配布され山形の穂波先生の説明を聞きながら、“とんでもない所に来てしまったかな”と……でもやさしい先生の一言“ゴールに向かって練習あるのみ、大丈夫ですよ”と励まされ、なんとなくその気になって……。

総勢15名週1回月4～5回（1回は盲学校）の練習を計画し卓球台を準備していただくも、場所が定まらず（騒音がひどい）最終的には体育館内の会議室を借りてどうにか納得、しかし今度は練習用の選手に問題あり、視力のある選手ではラリーが続きすぎ、ミスが少なく審判の練習にはならず、アイマスクを着けると勘が悪くラリーが続かずこれまた……ダメ。

月1回だけ盲人の選手の審判を練習するため盲学校へ……。

選手の皆さんの底抜けに明るい人柄に触れ、励まされもしましたが、勘のよい選手の皆さんは我々が気づかない音でも敏感に察知し審判がスムーズに出来ない、ハッパをかける……とても悔しい思いもしました。

練習をさせてもらう立場上、ガマン、ガマン。

平成6年11月、愛知国体の視察のため名古屋へ。

本番で舞いあがって次の言葉が出てこない審判員の姿を目の当たりにして我々も…不安は増すばかりでした。ホテルに戻って反省会。などかなるよ、大丈夫//と。

平成7年に入り県大会。他県（青森）との交流試合、リハーサル大会等審判の練習を重ねながら。最大の課題であった審判の判定を統一すること。一生に一度しか参加できない選手がたとえ1回戦で敗れても良い思い出をもって帰ってもらえる様暖かい心を持って接することを肝に命じ本番に臨みました。

張り詰めた空気の中いよいよ本番。審判はあっという間に終わりました。

これで盲人卓球から解放される//

福島市家庭婦人卓球連盟 副理事長 熊川セツ子